



今週のPOINT

国内株式市場

需給悪化警戒も外部リスクを避けた中小型株物色に向かうか

今週の分析銘柄 - FISCO Selection 8 -

細谷火工【JASDAQ 4274】ほか

テーマ別分析

総務省とCATV各社、災害時の被災者救援に乗り出す

話題のレポート

日経平均株価の上値を押さえる海外投資家

スクリーニング分析

決算発表一巡のタイミングで押し目買いが期待される銘柄群

出尽くし感で調整した銘柄の押し目買いに注目

1	今週の市場見通し	国内株式市場	マーケット概観	3	
			新興市場	4	
		米国株式市場		5	
		為替市場	米ドル/円予想レンジ	6	
		債券市場	債券先物・長期国債利回り予想レンジ	6	
2	マーケットを読む	今週のポイント		7	
		日経平均株価		8	
3	今週の分析銘柄	FISCO Selection	大東建託 〈1878〉 東証1部	9	
			ブロッコリー 〈2706〉 JASDAQ	10	
			SUMCO 〈3436〉 東証1部	11	
			細谷火工 〈4274〉 JASDAQ	12	
			インフォコム 〈4348〉 JASDAQ	13	
			キャリアインテックス 〈6538〉 マザーズ	14	
			ピクセラ 〈6731〉 東証2部	15	
			日本アビオニクス 〈6946〉 東証2部	16	
			読者の気になる銘柄	東芝 〈6502〉 東証1部	17
				日本郵政 〈6178〉 東証1部	17
			テクニカル妙味銘柄	スノーグローバルホールディングス 〈3563〉 東証1部	18
				ブイ・テクノロジー 〈7717〉 東証1部	18
		4	カテゴリー考察	テーマ別分析	
スクリーニング分析				20	
先週の話題レポート				21	
信用需給動向				22	
5	連載コラム			23	

需給悪化警戒も外部リスクを避けた中小型株物色に向かうか

■地政学リスクへの警戒強まる

先週の日経平均は下落。決算発表がピークを迎えるなか、北朝鮮を巡る地政学リスクを警戒する流れから、利益確定の売り圧力が強まっており、日経平均はこれまでのもち合いレンジを下げている。北朝鮮が「グアム周辺の攻撃検討」と威嚇する報道が伝えられるなか、9日の日経平均は一時300円を超える下げとなり、約2ヶ月ぶりの下落幅となった。同日の米国市場も地政学リスクの高まりが嫌気されてNYダウは200ドルを超える下落となったほか、トランプ大統領は「グアムに何かしたら、誰も見たことのないようなことが起きる」と述べ、弾道ミサイルを発射すれば対抗措置を取る可能性を示唆するなど、米国と北朝鮮との緊張がポジション圧縮に向かわせていた。

■地政学リスクへの警戒がくすぶる

今週も引き続き、北朝鮮を巡る地政学リスクへの警戒がくすぶることになり、これが上値の重石になろう。また、海外勢は9月のレイバーデーまでは夏季休暇となるため、商いは膨らみづらい。米議会も夏休みとなることで、オバマケア改廃案や税制改革、雇用創出につながるインフラ投資計画などの進展はないため、手掛かり材料に欠ける。米国では、ニューヨーク連銀製造業景気指数(8月)、小売売上高(7月)、住宅着工件数(7月)、フィラデルフィア連銀製造業景況指数(8月)、鉱工業生産指数(7月)、さらに、連邦公開市場委員会(FOMC)議事録公表といった経済動向を見るうえで重要な指標の発表等が予定されているが、北朝鮮情勢が落ち着きを見せない中では、利益確定の流れが優勢になりやすいとみられる。

■短期筋の資金流入などが株価の変動要因に

とはいえ、決算発表がピークを通過するなか、個人主体の売買は活発化しやすい。お盆休みとなるため、短期筋の資金流入などが株価の変動要因として意識されやすいだろう。マザーズ指数は先週、支持線として意識されていた75日線をあっさり割り込み、需給状況が悪化している。ただ、大幅な下げによって一気に需給整理が進捗している可能性があるほか、地政学リスクが高まるなか、外部環境に左右され難い銘柄を選択する中で、新興市場の中小型株には押し目狙いの流れが強まりやすいだろう。ゲーム株等の一角は大きく調整をみせているが、これらが見直し対象としてリバウンドをみせてくるようだと、センチメントは改善方向に向かうとみられる。

■19500円近辺での底堅さを見極め

そのほか、日経平均の価格帯別出来高では、商いの積み上がっていた20000-20200円のレンジを下げられる格好となり、今後は20000円接近での戻り待ちの売り圧力が警戒されやすい。一方で下値は、19000-19500円処で積み上がりが見られており、週初はこの水準を試す展開になる。売り一巡後に19500円近辺での底堅さがみられてくるようだと、選別物色ながらも押し目を拾う流れが意識されてくるとみておきたい。もっとも、19000円を割り込んでくると、商いの薄い価格帯に入ることから、4月安値水準を窺うトレンドが警戒されてくる。まずは海外勢の買いが観測されるのを見極めることになりそうだ。

その他の経済指標では、14日に4-6月期の国内総生産(GDP)速報値のほか、7月の中国の鉱工業生産、小売売上高、固定資産投資が発表される。個人主体の売買により、経済指標の結果を受けた為替動向などに、敏感に反応しやすい面もありそうだ。

薄商いで神経質な展開続く、注目 IPO の UUUM は BB 期間に

■決算本格化で個別対応中心の展開

今週の新興市場では、北朝鮮情勢などの外部環境を睨み、神経質な展開が続きそうだ。お盆休み期間ということで商いも細りがちとなり、相場全体の地合い軟化とともに大きく振らされる場面が出てくる可能性がある。従前の人気株では信用買い残が依然として高水準であり、株価の重しとなるだろう。好決算を受けて評価引き上げが期待される銘柄や、新サービスなどの期待材料がある一部の銘柄に物色が集中しやすいと考えられる。

今週は14日にエアリア<3758>、カヤック<3904>、インターネットインフィニティー<6545>、フェローテックHD<6890>、プレジジョン・システム・サイエンス<7707>、サイバーダイナミクス<7779>などが決算発表を予定している。スマートフォン向けゲーム「A3！」の好調で注目されたエアリアは第2四半期の業績見込みを公表済み。決算発表では通期予想の動向が注目されよう。前週に決算発表した銘柄では、じげん<3679>やエン・ジャパン<4849>で目標株価引き上げが観測されている。

■9日上場のトランザスはIoT関連のテーマ性

IPO関連では、14日から18日までUUUM<3990>のブックビルディング (BB) 期間となっている。YouTuberのマネジメントという時流に乗った事業内容で注目を集めており、先に発表された仮条件からも投資家の期待の高さが窺える。なお、先週はエスユーエス<6554> (9月13日、マザーズ)、ウォンテッドリー<3991> (9月14日、マザーズ) の新規上場が発表されている。



北朝鮮情勢を注視

■先週の動き

週初は、前週の良好な企業決算や雇用統計を好感して買いが先行したものの、ダウが連日最高値を更新する中で利益確定の動きが広がったほか、主要経済指標の発表に乏しく上値の重い展開となった。その後はハイテク株を中心に買いが広がり、S&P500 指数とダウは最高値を更新した。週半ばに入り、トランプ大統領が核交渉を拒否した北朝鮮に対して厳しい姿勢を示したことから地政学リスクへの警戒感が高まったほか、複数の主要企業の決算内容が嫌気され、軟調推移となった。北朝鮮によるグアム島沖へのミサイル発射計画が明らかになるなど、引き続き北朝鮮情勢への警戒感は強いが、地政学リスクを嫌気した売りが一巡し、週末にかけては買い戻しが広がった。結局、週を通じて主要株価は下落。

■今週の見通し

引き続き、北朝鮮を巡る地政学リスクの高まりから投資家心理の悪化が予想される。北朝鮮によるグアム島沖へのミサイル発射計画も明らかとなっており、朝鮮半島情勢の緊迫化が続けば、株式相場の動揺はさらに大きくなるだろう。しかしながら、地政学リスクを嫌気した株式相場の下落は、経験則では一時的な影響である場合が殆どで、むしろ買い場となる例が多いことにも留意が必要だ。

16日に、7月25・26日開催分のFOMC（連邦公開市場委員会）議事録が公開される予定となっており、注目が集まりそ

うだ。7月のFOMCでは雇用情勢の堅調さが強調された一方で、バランスシート縮小に関する新たな情報に乏しく、縮小開始が後ずれするとの思惑が広がった。バランスシートの縮小開始時期について何らかの示唆を得られるかが焦点となる。

企業決算では、革製品のコーチ（15日）、自動車用品小売のアドバンス・オート・パーツ（15日）、ホームセンターのホームデポ（15日）、ディスカウントストアのTJX（15日）やターゲット（16日）、小売最大手のウォルマート（17日）、アパレルのギャップ（17日）など小売各社の決算に加えて、ネットワーク機器メーカーのシスコ・システムズ（16日）や、半導体製造装置のアプライド・マテリアルズ（17日）、農業機械のディア（18日）などの決算発表が予定されている。小売り企業決算は、先週発表したメーシーズやコールズが嫌気されたほか、JCペニーも赤字幅が予想より拡大したことから軟調な内容が予想される。

経済指標では、7月輸入物価指数（15日）、8月NY連銀製造業景気指数（15日）、7月小売売上高（15日）、8月NAHB住宅市場指数（15日）、7月住宅着工・建設許可件数（16日）、7月景気先行指数（17日）などが予定されている。小売売上高は2ヶ月連続で減少しており、消費の弱さが示されている。7月の新車販売台数も減少しており、今回も軟調な内容が予想される。

為替市場

米ドル・円 予想レンジ

108.00 円 ~ 111.00 円

今週のドル・円は上値の重い状態が続くことになりそうだ。北朝鮮の核・ミサイル開発をめぐり米朝間の対立は激化しつつあり、軍事衝突に発展する可能性もあることから、リスク回避のドル売り材料となっている。一方、市場参加者は米連邦準備制度理事会（FRB）によるバランスシートの早期縮小を想定している。米7月小売売上高などの主要経済指標を点検し、米金融政策の今後の方針を見極める展開となりそうだ。

北朝鮮の朝鮮人民軍戦略軍はグアム周辺地域を「火星12」（中長距離弾道ミサイル）で包囲射撃する作戦計画を慎重に検討していると発表した。トランプ米大統領はこうした両国の対立で朝鮮半島有事への警戒感が高まっており、地政学的リスク増大を警戒したリスク回避の円買いは続く可能性がある。

米経済指標では15日発表の7月小売売上高が材料視される見通し。3カ月ぶりのプラスが見込まれており、予想通りなら個人消費の増大により米経済の成長持続が期待され、利上げ継続への思惑が広がりそうだ。ただ、FRBのバランスシート縮小や追加利上げなどの金融正常化に関しては、タイミングや正当性について懐疑的な見方が少なくない。7月25-26日に開催した連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨は16日に公表されるが、ハト派寄りのトーンが強い場合、ドルの先高観はやや後退する可能性がある。

【米・7月小売売上高】（15日発表予定）

15日発表の米7月小売売上高は前月比+0.4%と、6月の-0.2%から改善が見込まれる。想定通り3カ月ぶりのプラスとなれば、成長持続を背景に連邦準備制度理事会（FRB）によるバランスシート縮小と利上げ継続への期待が高まり、ドル買い材料になりそうだ。

【米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨公表】（16日予定）

7月25-26日に開催されたFOMC会合の議事要旨は16日（日本時間17日3時）に公表される。前回のFOMCでは市場の予想通り、現行の金融政策の据え置きが決定された。バランスシート縮小について、FOMCの声明では「比較的早期に」と表明されているが、その経緯などが注目されそうだ。

債券市場

債券先物予想レンジ

150.20 円 ~ 150.50 円

長期国債利回り予想レンジ

0.04 % ~ 0.07 %

■先週の動き

先週の債券相場はやや強含み。北朝鮮と米国の対立が激化し、軍事衝突の可能性が指摘されたことから、安全逃避の債券買いが優勢となった。北朝鮮軍戦略軍の報道官は8日、「新型中距離弾道ミサイル（火星12）で米軍基地があるグアム島周辺の包囲射撃を検討している」との声明を発表したことが材料視された。為替相場が円高方向に振れたことや日経平均株価の下落も債券相場に対する支援材料となった。債券先物は8日の取引で150円19銭まで下げたが、10日に150円45銭まで買われており、150円40銭でこの週の取引を終えた。

■今週の見通し

今週の債券相場はやや底堅い動きとなりそうだ。北東アジアにおける地政学的リスク増大に対する警戒感が消えていないことから、安全逃避目的の債券買いがただちに縮小する可能性

は低いとみられている。ただし、2年債と5年債の需要は増えるものの、長期債と超長期債については残存期間が長いことから、安全逃避先として適当な対象ではないとの見方が多い。そのため、短・長期間と中・長期間のイールドカーブは目的的にスティーピング気配で推移すると予想される。

先週行われた30年国債入札は無難な結果となったが、超長期債利回りは下げ渋った。長期債と超長期債の利回り水準がただちに上昇するとの見方は少ないものの、日本銀行による国債買い入れ額が増えない場合、長期債と超長期債の気配は相対的に甘くなる可能性がある。

債券先物は150円台半ば前後でもみあう展開か。地政学的リスク増大を警戒して債券先物は下げ渋るとみられるが、主要国の株安が一服し、ドル・円相場が円安方向に振れた場合、債券先物の上値はやや重くなりそうだ。

市場参加者も減少で手掛かり材料も乏しくなり、上値余地は限定的に

先週の日経平均は軟化した。週初は引き続き膠着感の強まる展開となったが、北朝鮮有事リスクへの警戒感再燃で後半にかけて崩れる格好となった。注目された米雇用統計は、非農業部門雇用者数が上振れるなど、金融正常化の遅れに対する懸念がやや和らぐ状況につながった。ただ、複数の連銀総裁が追加利上げに慎重な姿勢を示すなどで、日本株へのポジティブな反応は限られた。その後、北朝鮮が小型化した核弾頭の製造に成功と報じられるなどでリスク回避の動きが先行、為替の円高進行とともに、日経平均は約2か月半ぶりの安値水準に落ち込む。

個別では、引き続き決算銘柄に関心が集中した。ミネベアミツミ、スクエニ HD、日カーボン、日本製鋼所、ダイフク、ヤマハ発、資生堂、三井金属、アルバック、太平洋セメントなどが好感され、中小型株では、フルキャスト、THE グローバル社、KLab、ワコム、カーバイド、ゲオ、ステラケミファ、イチケンなどが決算を受けて急伸。一方、ダブルスコープ、スルガ銀、日機装、パイオニア、JDI、長谷工、クックパッド、SUMCO などが決算後に売られた。トヨタやソフトバンクGなどは決算が中立要因と捉えられ、鹿島は買い先行後に伸び悩んだ。ほか、ルネサスや安川電機は投資判断格上げの動きが材料視された。東芝は監査法人の「限定付き適正」方針を受けて安心感が強まり、GS ユアサは走行距離2倍の新型電池量産と伝わり買い材料視された。防衛関連の代表格として石川製は週後半にかけて賑わった。

今週はお盆休み期間中とあって、投資家層の減少が予想される。北朝鮮リスクへの警戒感も拭えず、少なくとも株価上振れの可能性は低いとみられよう。週初には4-6月期GDPが発表され、ポジティブな内容となる可能性が高いものの、相場への影響は限定的なものにとどまりそうだ。4-6月期の決算発表が一巡したことで、買い手掛かり材料が一気に乏しくなることも、株式市場のボリューム低下につながる。

米国決算では、15日にホーム・デポ、16日にシスコシステムズ、17日にアプライド・マテリアルズ、ウォルマート、18日にディアなどが予定されている。とりわけ、アプライドの決算が注目だろう。全般的にハイテク株には出尽くし感が強まりかけており、さらなる上値追いのきっかけ材料となるかに注目。国内では、14日に富士フイルムや出光興産の決算が予定されている。

決算発表が一巡したタイミングでは、あらためて決算内容を受けての選別物色の動きが強まりやすい。とりわけ、好決算を発表しながら、出尽くし感が先行した銘柄の押し目買いの動きなどには注目しておきたい。北朝鮮リスクは当面拭い切れないとみられ、防衛関連が幅広く物色される可能性なども注目したいが、とりわけ、川崎重工や三菱重工などの大型株のほうにも注目度を高めたい状況だ。決算からテーマへと物色シフトが早々に進むならば、リチウムイオン電池関連が有望か。個別では先週末にガイダンス上方修正の東芝が目先は一段と賑わおう。

先週動いた銘柄・セクター（東証1部・個別銘柄は他市場が優先市場のものを除く）

上昇率上位銘柄				下落率上位銘柄				業種別騰落率	
コード	銘柄	終値(円)	騰落率(%)	コード	銘柄	終値(円)	騰落率(%)	上位セクター	騰落率(%)
4109	ステラ ケミファ	3,960.0	28.36	5852	アーレスティ	953.0	-17.35	非鉄金属	3.35
7419	ノジマ	2,149.0	21.83	6490	日本ビラー工業	1,544.0	-16.99	石油・石炭製品	3.19
8519	ポケットカード	1,064.0	21.74	7408	ジャムコ	2,405.0	-16.95	鉄鋼	1.47
2429	ワールドHD	3,205.0	20.08	7280	ミツバ	1,595.0	-16.14	水産・農林業	0.66
5631	日本製鋼所	2,185.0	19.33	6238	フリュー	1,067.0	-15.92	小売業	0.51
4686	ジャストシステム	2,029.0	18.93	7238	曙ブレーキ工業	340.0	-15.63	食料品	0.27
6208	石川製作所	1,425.0	18.75	7816	スノーピーク	2,730.0	-15.35	輸送用機器	0.24
2681	ゲオHD	1,465.0	18.15	6619	ダブル・スコープ	1,956.0	-14.96	下位セクター	騰落率(%)
3656	KLab	2,122.0	17.76	2428	ウェルネット	1,209.0	-14.74	保険業	-2.47
6844	新電元工業	664.0	17.11	7244	市光工業	743.0	-14.60	金属製品	-2.27
4848	フルキャストHD	1,665.0	17.09	7873	アーク	103.0	-14.17	精密機器	-2.11
9957	バイテックHD	1,650.0	16.36	3661	エムアップ	1,539.0	-13.64	海運業	-1.89
5310	東洋炭素	2,168.0	16.00	6445	蛇の目ミシン工業	779.0	-13.44	銀行業	-1.80
8154	加賀電子	2,832.0	15.50	4801	セントラルスポーツ	4,215.0	-13.18	その他製品	-1.75
7715	長野計器	902.0	15.35	6839	船井電機	850.0	-13.18	機械	-1.64

下へのバイアス強まり 19000 円辺りまでの下落も視野に

■米朝関係の緊張化で下放れる地合い

前週の日経平均は週間ベースで 222.59 円の下落。米朝関係の緊迫化を受けてリスク回避の流れが強まり、米国株は下落。為替市場ではドル売り買いが強まり、日経平均はボックス相場を下放れる格好となった。薄商いだった先物市場では売買が増加しており、9 日は先物主導で下げ幅を拡大する場面も見られた。週末の米国株は下げ一服となっているが、ドル・円は 109 円 10 銭台、円建て CME 先物は 19395 円で取引を終えていることから、週明けの東京市場は売り優勢でスタートする公算が大きい。

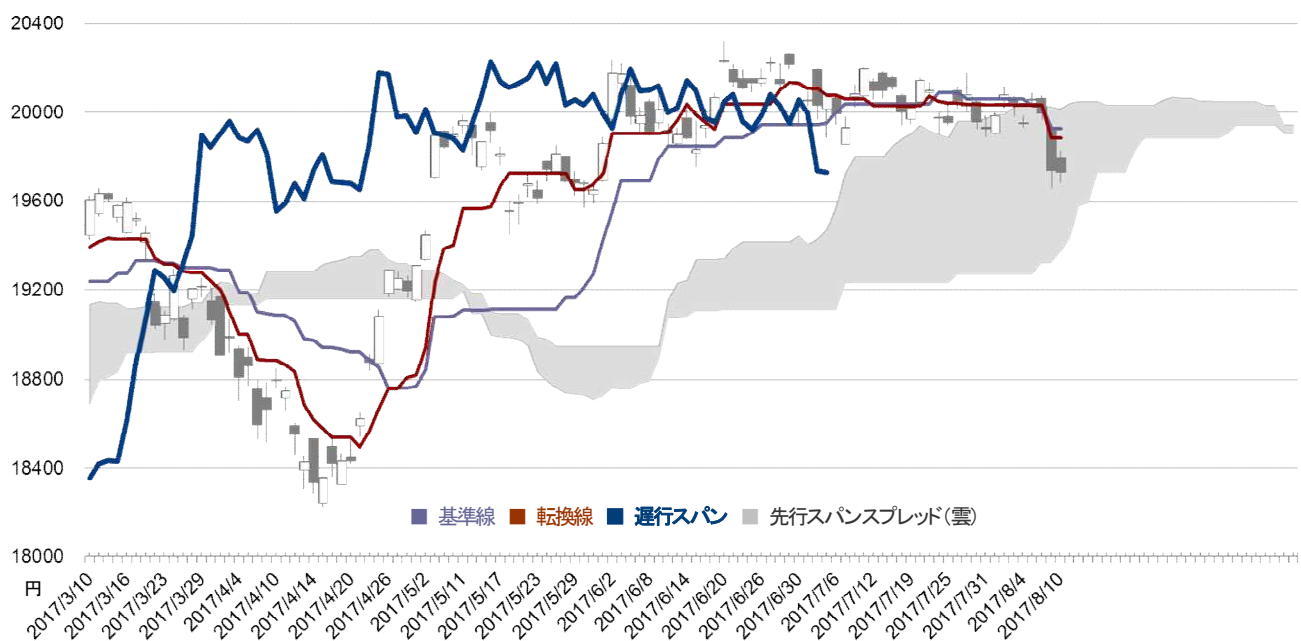
日足の一目均衡表では、もみあっていた雲上限を下放れており、運行スパンも実線を下回っている。円建て CME 先物は 14 日の雲下限 19430 円を下抜けているが、この水準がサポートラインとして意識されて下げ止まるかに注目。一方、ボリンジャーバンドでは、拡大する -2σ に沿った「バンド・ブレイク（ウォーク）」が示現している。膠着相場が長かった分、ボックス圏下放れに伴い下へのバイアスは強まりそうだ。先週は 19700 円水準で下げ渋ったが、週初は 19400 円水準まで下落する可能性が高い。下落トレンド入りで下値を探る展開も想定しておきたい

ところだ。短期的な下値メドとして、一目均衡表の雲下限 19430 円が意識されそうだが、円建て CME 先物は既にこの水準を下回っていることから、200 日移動平均線が位置する 19200 円水準まで調整するかもしれない。

週足チャートでは、4 月以降上回っていた 26 週移動平均線（19569 円）を下回ることとなりそうだ。13 週移動平均線も下向きとなったことで、中期的なトレンドは転換を迎える可能性がある。52 週移動平均線が位置する 18569 円辺りが中期的な下値メドとして意識されよう。価格帯別売買高では、19000 円から 19500 円の売買が多いことから、こうした価格帯を下抜けると需給的には下値模索の展開となる。

先物市場の売買が増加しており、思惑的な売買によってオーバーシュートするような展開は頭に入れておきたい。朝鮮半島で有事が発生した際、指数、為替は乱高下となろう。個別では防衛関連銘柄に関心が向かいそうだが、大型株を中心に売り圧力は強まると想定。今週は有事を想定したオプションのプット買いや、ベア ETF 買いが活発化しそうだ。レンジは 19000 円から 19800 円とする。

20800 一目均衡表（日経平均）



大東建託〈1878〉東証1部

最悪期通過を映して買い戻しの動き活発化に期待

■ネガティブ視する局面は通過へ

建設受注は5月まで8カ月連続で前年割れが続いていたものの(うち7カ月は2ケタの減少)、6月は前年同月比11.2%増、7月は同7.3%増と回復基調が鮮明化してきている。また、マクロ環境を見ても、6月の貸家着工が20カ月ぶりに減少するなど今後マイナス基調に転じる公算が大きく、供給過剰感が緩和される可能性が高まってきている。同社をネガティブ視する局面は通過したと判断されよう。第1四半期決算では完成工事総利益率の大きな悪化も見られず、19年3月期以降の一段の業績鈍化懸念は後退したと考えられる。

■ショートカバーのニーズは強い

先行きへの不透明感からショートニーズも強かったとみられ、現在の信用倍率は0.03倍という低水準にある。目先は買い戻しの動きが活発化していく余地も大きいといえよう。3%近い配当利

売買単位	100 株
8/10 終値	19370 円
目標株価	21325 円
業種	建設

回り水準から、依然として株価の割安感も感じられるところだ。年初の高値水準18170円から4月の安値15015円までの倍返し水準となる、21325円を当面の目標株価と設定したい。

★リスク要因

バリュエーション面での割安感は乏しい。

1878:日足

株価が上昇トレンドで高値圏にある中、信用取組妙味は強い。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2014/3連	1,259,673	9.3%	89,780	93,335	9.1%	55,277	693.90
2015/3連	1,353,155	7.4%	91,520	95,887	2.7%	56,109	710.19
2016/3連	1,411,643	4.3%	101,001	105,558	10.1%	67,279	863.11
2017/3連	1,497,104	6.1%	120,162	124,509	18.0%	82,168	1072.64
2018/3連予	1,585,000	5.9%	124,000	128,000	2.8%	86,000	1118.78

ブロッコリー 〈2706〉 JASDAQ

新作スマホゲームのリリースに向けた注目度 UP に期待

■「うたの☆プリンスさまっ♪ Shining Live」は順調

女性向け人気コンテンツ「うたの☆プリンスさまっ♪」やトレーディングカードゲーム「Z/X(ゼクス)」などオリジナルコンテンツ(アニメ、ゲーム、音楽、映像、カードゲーム)の企画・制作を手掛ける。今夏に配信を予定している、スマホ向けリズムアクションゲーム「うたの☆プリンスさまっ♪ Shining Live」の公式 Twitter アカウントと LINE 公式アカウントでの事前登録者数が合計で 150 万人を突破した。また、9 日より Google Play での事前登録の受付を開始しており、リリースに向けた今後の伸びが手掛かり材料になりやすいだろう。

■雲突破によるシグナル好転に期待

株価は 7 月下旬につけた戻り高値 1124 円をピークに調整をみせているが、25 日線に上値を抑えられるなか、先週末にはこの抵抗線を突破してきている。一目均衡表では雲の中での推移で

売買単位	1000 株
8/10 終値	1106 円
目標株価	1300 円
業種	その他製品

強弱感が対立しやすいところだが、今後雲上限が切り下がるため、これを突破してシグナルが好転する可能性がありそうだ。目標株価は直近戻り高値を通過点とし、6 月高値水準の 1300 円とする。

★リスク要因

直近戻り高値水準での戻り売り圧力。

2706: 日足

足元で上値抵抗の 25 日線を突破。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2014/2単	6,786	55.2%	2,151	2,150	158.1%	1,908	58.31
2015/2単	6,256	-7.8%	1,470	1,484	-31.0%	904	27.64
2016/2単	6,429	2.8%	1,010	989	-33.4%	622	17.67
2017/2単	5,692	-11.5%	707	728	-26.4%	479	10.96
2018/2単予	5,700	0.1%	800	800	9.9%	500	11.43

SUMCO 〈3436〉 東証1部

業績急回復をあらためて見直す局面に

■好決算発表銘柄を見直しの局面に

先週末で4-6月期の決算発表は大方一巡している。目先は、決算内容をもう一度吟味しなおすタイミングに入ると考えられよう。こうした中で注目されるのは、好決算を発表したものの、出尽くし感から短期の利食い売りが先行したような銘柄の押し目買いの動きとみられ、同社のリバウンドに注目したい。17年12月期第2四半期の営業利益は前年同期比約2.8倍と急拡大したものの、ほぼコンセンサス水準での着地となったことで、出尽くし感が先行する形になっている。また、300ミリシリコンウエハーの生産能力増強発表で、増産による市況悪化への警戒感なども強まったようだ。ただ、決算を受けて国内大手証券では格上げの動きを行っているほか、米系証券では発表された増産計画は「予想していたベスト・シナリオに近いもの」との見解を示している。

■下値支持線まで到達でリバウンド期待

1600円レベルは今年前半からの下値支持線でもあり、株価調

3436: 日足

7月安値水準を支持線にリバウンドへの期待。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2013/12連	185,105	-10.4%	17,801	7,065	-25.3%	715	-
2014/12連	225,319	21.7%	25,642	21,926	210.3%	16,289	58.84
2015/12連	236,826	5.1%	29,447	25,538	16.5%	19,747	70.06
2016/12連	211,361	-10.8%	14,046	9,919	-61.2%	6,588	22.46
2017/12連予	-	-	-	-	-	-	-

売買単位	100 株
8/10 終値	1611 円
目標株価	1903 円
業種	金属製品

整は一巡、今後は見直しの動きが強まってくると考えておきたい。7月4日安値とのダブルボトムを期待したい。7月26日の戻り高値水準となる1903円を目先の目標株価とする。

★リスク要因

支持線割れに伴う処分売り圧力。

細谷火工 〈4274〉 JASDAQ

北朝鮮情勢を巡る地政学リスクが高まる中で注目

■足元で高まる地政学リスクで物色向かう

北朝鮮が米領グアム沖に弾道ミサイルを発射する計画を表明したことによって、トランプ米大統領の同国に対する姿勢が一段と強硬になっている。これを受けた米国と北朝鮮を巡る地政学リスクの高まりによって、日本株の上値が抑えられる展開が続くことになりそう。また 11 日に、日本政府は国内への落下に備えて空自の地対空誘導弾パリオットミサイル(PAC3)を中四国4県で展開することを決定した。これを受けて、同社をはじめとした防衛関連銘柄に更に関心が向かうことが期待される。

■業績は下期以降に期待

9日に発表した18年3月期第1四半期(4-6月)売上高が前年同期比22%増となった。一方で営業利益は、新規火工品の販売が下期以降にズレ込んだことや新規開発品の支出増加などによる影響により、下期以降に期待を残す格好となった。北朝鮮情勢

売買単位	100 株
8/10 終値	1095 円
目標株価	1200 円
業種	化学

を巡る問題がいったん落ち着きを見せるまではテーマ物色は継続するとみている。4月につけた年初来高値までの戻りを試す展開を見込み、まずは直近の目標株価を現値より約10%上方の1200円とする。

★リスク要因

防衛関連物色の一巡。

4274: 日足

調整一巡後は、75日線を支持線に、下値切り上げのトレンドが継続。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2014/3単	1,582	5.3%	165	162	-26.0%	102	25.46
2015/3単	1,571	-0.7%	212	208	28.4%	98	24.70
2016/3単	1,584	0.8%	127	154	-26.0%	99	24.80
2017/3単	1,466	-7.4%	164	163	5.8%	114	28.53
2018/3単予	1,494	1.9%	119	112	-31.3%	77	19.35

インフォコム〈4348〉JASDAQ

「めっちゃコミ好調」、好業績とテーマ性で一段高へ

■第1四半期は営業利益4倍

スマートフォン・携帯電話向けのコンテンツ配信や医療機関、企業、公共機関向けのソリューション・サービス提供を行っている。電子書籍配信サービス「めっちゃコミック」では認知度維持向上を目的に主要都市圏でテレビCMを継続実施しているほか、サイト運営に人工知能(AI)を活用するなどの取り組みを進めており、業績のけん引役として順調に推移している。7月28日に発表した18年3月期の第1四半期(17年4-6月)決算は、営業利益が前年同期比4.0倍の6.51億円となった。

■医療ICT関連とも、株価に割高感なし

当第1四半期はITサービス・セグメントの業績改善が進んでいる点にも注目したい。電子コミックとともに重点事業に位置付けるヘルスケア事業が好調に推移しており、「医療・介護ICT」関連のテーマ性でも物色の矛先が向かいそうだ。株価は第1四半期決

売買単位	100 株
8/10 終値	2548 円
目標株価	3000 円
業種	情報通信

算を受けて急伸し、足元では2000円台半ばでのみみ合いが続いている。しかし、現行の株価水準は今期予想PER17倍程度で割高感はなく、25日線接近から一段高に期待したい。当面の目標株価は節目の3000円とする。

★リスク要因

決算発表後の材料出尽くし感台頭。

4348:日足

8月1日に上場来高値(分割考慮後)2754円を付ける。切り上がる25日線の接近で短期的な過熱感は後退。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2014/3連	39,138	4.7%	3,677	3,686	5.6%	2,041	73.98
2015/3連	40,309	3.0%	3,606	3,692	0.2%	2,171	79.43
2016/3連	40,316	0.0%	4,427	4,558	23.5%	728	26.64
2017/3連	41,768	3.6%	4,776	4,854	6.5%	3,261	119.28
2018/3連予	46,000	10.1%	5,300	5,300	9.2%	4,000	146.29

キャリアインデックス〈6538〉マザーズ 人手不足を背景にした好業績で注目へ

■転職情報など集客プラットフォームを運営

転職情報サイトなど人材関連やスクール情報をメインとして、インターネットを活用した集客プラットフォームを運営する。10日に発表された第1四半期(2017年4-6月期)業績で好進捗が確認されたことから注目したい。同社の発表資料によると、参考数値ながら前年同期比で売上高が49%増、営業利益が2.4倍となっているほか、通期業績に対する進捗率が売上高で25.4%、営業利益で29.0%と高水準で、順調なスタートを切っている。人材サービス関連では人材の構造的な需給逼迫が深刻化しており、中長期的な観点でも、人材各社によるこうした集客プラットフォームへの依存度は高まるものと想定され、同社業績にも追い風となろう。

■ウォンテッドリーのIPO発表も材料視へ

また、足元では10日に〈3991〉ウォンテッドリーの新規IPO銘柄が発表されていることも同社にとって刺激材料となるだろう。ウォ

売買単位	100 株
8/10 終値	2120 円
目標株価	2300 円
業種	サービス

ンテッドリーは転職・採用に使えるビジネス SNS「Wantedly」を運営しており、人材関連としてキャリアインデックスに注目が集まる可能性を予想した。株価は25日線がサポートラインとして意識される。目標株価は先週末終値比で約10%高の2300円に設定する。

★リスク要因

北朝鮮情勢の影響で全体相場が低調となる可能性。

6538: 日足

25日線が下値支持線として機能。



会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2014/3単	917	46.7%	-	303	51.5%	184	115.12
2015/3単	1,500	63.6%	409	410	35.3%	258	161.62
2016/3単	1,298	-13.5%	233	233	-43.2%	151	94.58
2017/3単	1,703	31.2%	446	462	98.3%	285	58.10
2018/3単予	2,152	26.4%	606	593	28.4%	352	68.16

ピクセラ〈6731〉東証2部

強みを生かせるビジネス機会が拡大

■4K・8K放送向けチューナーの需要が拡大

液晶テレビやデジタルチューナー等のデジタル AV 家電及び関連製品のほか、テレビキャプチャー及び関連製品、デジタルカメラ・ビデオカメラ向け画像編集関連ソフトウェアの開発・販売等を展開している。同社の強みは自社開発で蓄積されたソフトウェア資産を他の開発案件へ流用することにより、コスト競争力のある開発が可能であること。また、強みを生かせるビジネス機会として、2018年より4K・8K実用放送が開始されることにより、4K・8K放送に対応するテレビチューナーの需要が拡大することが挙げられる。さらにIoT市場、AR/VR市場、AI・ビッグデータ市場の拡大が追い風となるとみられる。

■ボックスレンジ相場からの突破に期待

株価は5月半ば以降の急伸、その後の大幅調整後はボックス相場を形成している。ただし、下値は25日線処での底堅さが意

売買単位	100 株
8/10 終値	261 円
目標株価	330 円
業種	電気機器

識されており、自律反発狙いで注目したい。また、一目均衡表では雲下限からの出直りが期待され、雲のねじれ局面からの突破が意識されてきそうである。目標株価は直近の戻り高値である330円とする。

★リスク要因

バリエーション面での割高感。

6731:日足

25日線レベルが支持線として意識される。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2013/9連	3,718	-36.9%	-332	-404	-	-253	-
2014/9連	3,012	-19.0%	-500	-557	-	-492	-
2015/9連	2,822	-6.3%	-366	-355	-	-277	-
2016/9連	1,901	-32.6%	-393	-453	-	-481	-
2017/9連予	2,399	26.2%	42	10	-	4	0.13

日本アビオニクス〈6946〉東証2部

PAC3の配備決定で改めて注目

■PAC3の配備決定で改めて注目

防衛システム機器や接合機器、赤外線機器などを手掛ける。NECの連結子会社。政府が地対空誘導弾/パトリオットミサイル(PAC3)を展開することを決めたことから注目したい。中距離弾道ミサイルを4発同時発射して、グアム沖30~40キロの海上に落下させる際に、ミサイルが島根、広島、高知の上空を通過すると北朝鮮が予告している。ミサイルの不具合などで日本の領土・領海に落下するなどの事態に対応するためにPAC3を配備する。北朝鮮のミサイル発射が頻発していたこともあり、地政学リスクに対する市場の「慣れ」が見られていたものの、足元では再度警戒感が高まりつつある。11日の米国市場では北朝鮮情勢の緊張を嫌気した売りが一巡したものの、引き続き不透明な状況は継続しており、注目しておきたい。

■トランプ大統領の発言で動意づく場面も

足元では地政学リスクの高まりを背景に、石川製作所<6208>を

売買単位	1000 株
8/10 終値	288 円
目標株価	315 円
業種	電気機器

中心に防衛関連銘柄の上昇が目立った。利益確定売りも警戒されるものの、引き続きトランプ大統領の発言などで動意づく場面もある。目標株価は10日の終値から約10%上昇した315円とする。

★リスク要因

短期資金の逃げ足の速さ。

6946:日足

足元でゴールデンクロス示現が近づく。



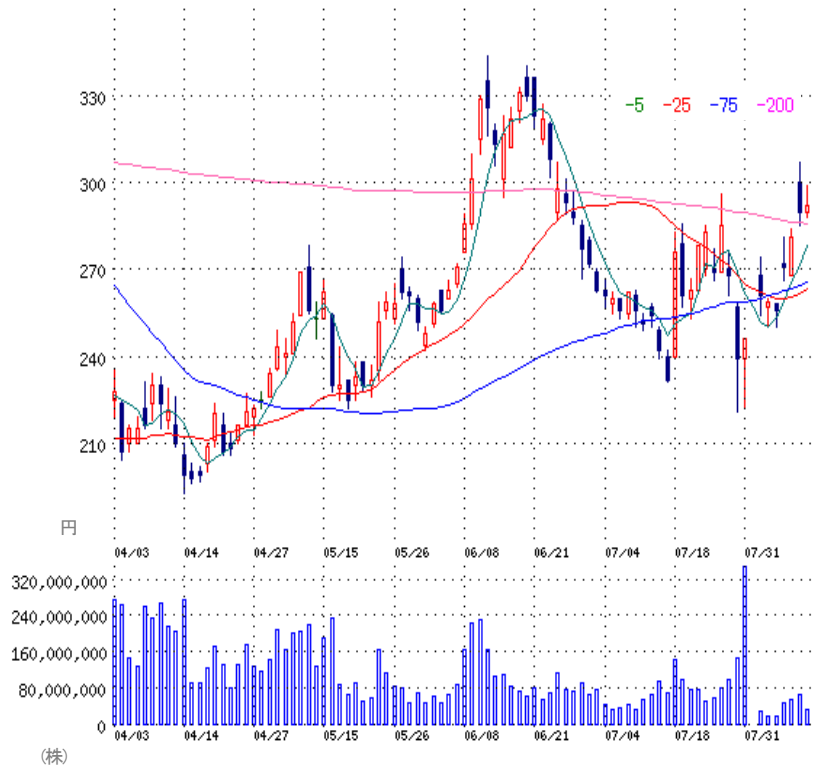
(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2014/3連	27,275	5.9%	640	519	476.7%	402	14.26
2015/3連	25,685	-5.8%	483	430	-17.1%	-421	-
2016/3連	22,920	-10.8%	574	479	11.4%	115	4.10
2017/3連	21,442	-6.4%	20	-60	-	1,510	53.48
2018/3連予	21,500	0.3%	-850	-900	-	250	88.51

東芝 東証1部<6502>/短期的にメモリー事業の価値向上を評価する流れにも

先週末、監査法人の限定付き適性を得た有価証券報告書を提出し、2017年3月期決算を確定している。監査法人の「不適正」意見による上場廃止は免れる格好になった。また、18年3月期第1四半期では、営業利益は967億円となり、前年同期比804億円の増益となった。フラッシュメモリービジネスの好調が大幅増益の背景であり、通期予想は2000億円から4300億円に増額修正されている。

半導体メモリー事業の売却交渉が遅れており、依然として18年3月期債務超過による上場廃止リスクは低下していない。しかし、短期的にはメモリー事業の好調を材料視する動きが強まろう。米系証券では、企業価値の高まりを背景に投資判断を「買い」推奨に格上げしている。また、たとえ上場廃止になっても法的整理がなされないことを前提に投資しているファンドの存在なども思惑視されよう。



日本郵政 東証1部<6178>/決算にはポジティブ要素も多いが株価反応は限定的

先週末に18年3月期第1四半期の決算を発表している。当期利益は1045億円で、会社の通期計画4000億円に対する進捗率は26.1%と好スタートとなっている。一時費用などを考慮すると、郵便・物流事業は実質赤字幅が縮小しているほか、金融窓口事業の営業利益が大幅に上振れたと想定されること、To11社の今後の業績改善見込みが高まったことなど、ポジティブな要素が多いと判断される。

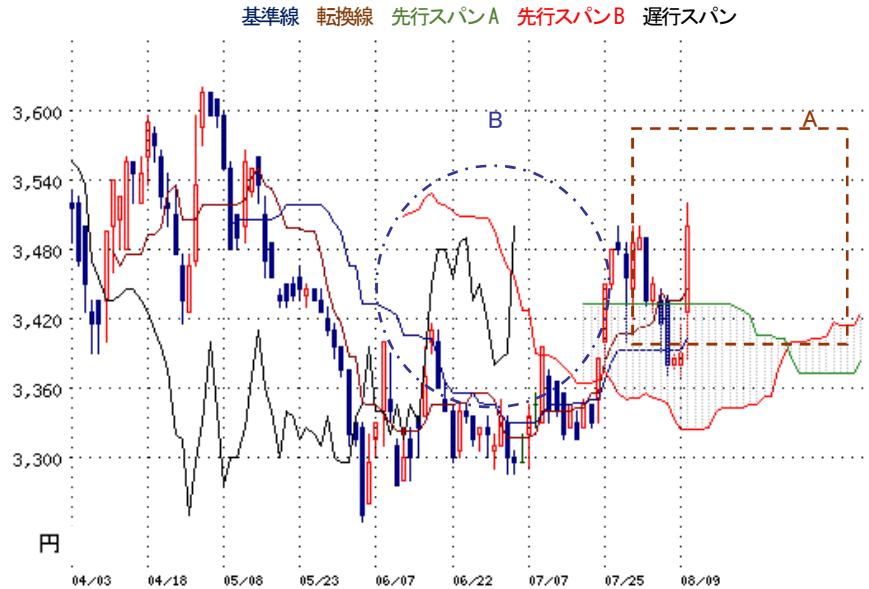
ただ、同社の企業価値の87%は金融子会社2社で占められており、ゆうちょ銀行やかんぽ生命の決算にはサプライズが乏しいため、株価への影響は限定的と考えられよう。約3.6%の配当利回り水準から株価の下値余地も限定的であり、当面は1400円レベルを挟んだボックスレンジの動きが続く見通しだ。



スシローグローバルホールディングス

東証1部(3563)

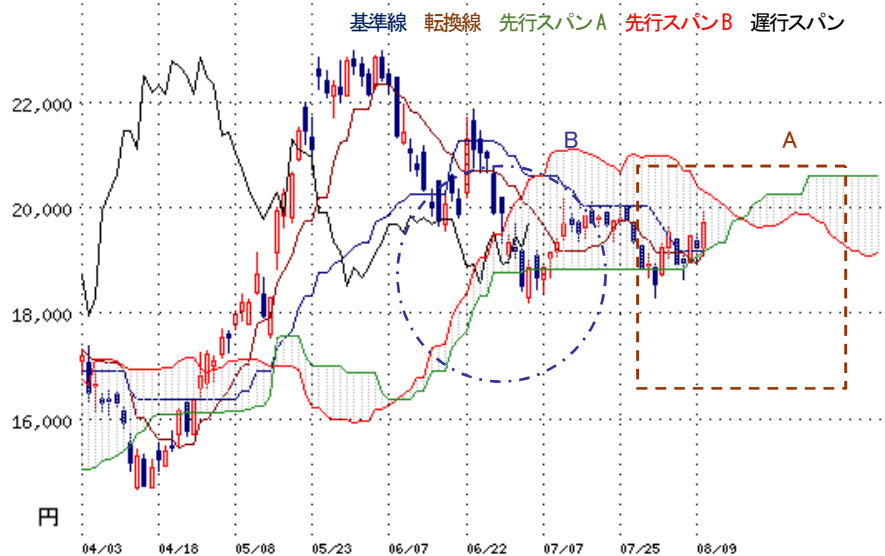
日足ベースの一目均衡表。雲上限を割り込むものの、大陽線示現によって一気に基準線、転換線、雲を上放れ、直近戻り高値を突破している（点線・四角A）。遅行スパンは実線を大きく上回っての推移をみせており、上方シグナルが継続している（点線・丸B）。今後は直近戻り高値水準が支持線として意識される格好となり、これを確認するようだと、4月高値を意識したトレンド形成が強まる可能性がある。



バイ・テクノロジー

東証1部(7717)

日足ベースの一目均衡表。足元で調整が続いているが、雲下限での攻防のなか、雲下限及び転換線、基準線が支持線として意識されてきている（点線・四角A）。遅行スパンは実線が切り下がるなかでこれを突破しており、上方シグナルを発生させてきている（点線・丸B）。週半ばには雲のねじれが起きることもあり、雲下限に沿ったトレンドのなか、雲突破によるシグナル好転が意識されてくる。



総務省とCATV 各社、災害時の被災者救援に乗り出す

■CATVに個人別避難情報

総務省とケーブルテレビ（CATV）各社が共同で災害時の被災者救援に乗り出すと報じられている。市町村はマイナンバーで対象の視聴者を特定し、避難場所や避難勧告の内容などを配信する。「セットトップボックス」と呼ばれるCATVの受信機とマイナンバーを連動させ、リモコンで住所や氏名などマイナンバーカードの情報をセットトップボックスに送信。テレビをつければ、通常の番組に割り込む形で市町村から個人宛での避難情報をみられると伝えている。最近の豪雨は土砂崩れなど思わぬ二次災害を招く面があり、きめ細かな情報発信で避難誘導と安否確認を素早く済ませるとしており、CATV 関連需要への思惑も高まりそうである。

■主な「CATV」関連銘柄

コード	銘柄	市場	8/10株価 (円)	ポイント
1721	コムシスホールディングス	東証1部	2,438.0	電気通信設備工事、CATV工事
1724	シンクレイヤ	JASDAQ	464.0	ケーブルテレビのシステムインテグレータ
1951	協和エクシオ	東証1部	2,094.0	CATV関連工事
1973	NECネットエスアイ	東証1部	2,473.0	CATV加入者管理システム
2329	東北新社	JASDAQ	771.0	ケーブルテレビなどに番組供給
3167	TOKAIホールディングス	東証1部	845.0	放送サービス・通信サービス(インターネット接続サービス)を提供
4317	レイ	JASDAQ	306.0	テレビCMなどの企画・制作
4347	ブロードメディア	JASDAQ	103.0	コンテンツ・放送・スタジオ・技術・ネットワーク事業
4676	フジ・メディア・ホールディングス	東証1部	1,649.0	放送事業を中心に、映像音楽、生活情報
4763	クリーク・アンド・リバー社	東証1部	1,261.0	番組・CM制作、エージェンシー(派遣・紹介)事業
4772	デジタルアドベンチャー	JASDAQ	555.0	CS放送、アーティストマネジメント
4814	ネクストウェア	JASDAQ	361.0	ケーブルテレビ事業者向けの伝送路管理システム
4816	東映アニメーション	JASDAQ	9,660.0	東映チャンネル
4838	スペースシャワーネットワーク	JASDAQ	601.0	スペースシャワーTV
4839	WOWOW	東証1部	3,300.0	国内初の民間衛星放送会社
6731	ピクセラ	東証2部	261.0	CATV向けのIP-VODサービス
6752	パナソニック	東証1部	1,475.5	CATVデジタルセットトップボックス
6756	日立国際電気	東証1部	2,833.0	CATV機器・アンテナ
6758	ソニー	東証1部	4,338.0	番組自動送出システム
6771	池上通信機	東証1部	155.0	自動番組送出システム
6815	ユニデンホールディングス	東証1部	270.0	無線通信・応用機器、デジタル家電機器
6822	大井電気	JASDAQ	284.0	情報伝送機器開発、情報通信事業
6875	メガチップス	東証1部	3,470.0	CATV向けVOD「ケーブルアクトビラ」
6916	アイ・オー・データ機器	東証1部	1,144.0	ネットワーク機器
8053	住友商事	東証1部	1,562.0	ジュビターテレコム
8066	三谷商事	東証2部	4,360.0	インターネット、ケーブルテレビ事業
8089	すてきなリスグループ	東証1部	156.0	YOUテレビ
9005	東京急行電鉄	東証1部	1,627.0	ケーブルテレビのイツコム
9405	朝日放送	東証1部	838.0	西日本最大手の民放TV局で朝日新聞社、テレビ朝日系
9409	テレビ朝日ホールディングス	東証1部	2,147.0	日本ケーブルテレビジョン
9412	スカパーJSATホールディングス	東証1部	493.0	衛星事業・メディア事業
9413	テレビ東京ホールディングス	東証1部	2,484.0	ケーブルテレビ事業などへのチャンネル供給
9414	日本BS放送	東証1部	1,194.0	BSハイビジョン放送「BS11」を運営
9433	KDDI	東証1部	2,931.5	Smart TV Box、MOVIE SPLASH VOD

出所：フィスコ作成

決算発表一巡のタイミングで押し目買いが期待される銘柄群

■出尽くし感で調整した銘柄の押し目買いに注目

4-6月期の決算発表が大方一巡した局面は、好業績銘柄を再度選別物色するタイミングと考えられる。今回の決算は、先陣を切った安川電機をはじめポジティブな決算が多かったとみられ、こうした織り込みが進んだ分、好決算発表後に出尽くし感から利食い売りが優勢となるものも多く見受けられた。決算発表が本格化したこの1か月間において、順調な業績推移とみられるものの、株価の調整が大きかった銘柄に注目。今後、押し目買いの動きなどが強まる可能性が高いと考えたい。

スクリーニング要件としては、①直近1カ月の株価下落率が10%以上、②今期予想含め3期連続2ケタ営業増益、③PERが40倍未満、④PER3, 6, 9, 12月期決算銘柄。

■株価調整が進んだ好業績銘柄

コード	銘柄	市場	8/10株価 (円)	時価総額 (億円)	PER (倍)	株価騰落率 (%)
1435	インベスターズC	東証1部	5,200	795.1	22.5	-10.19
2477	比較コム	マザーズ	1,585	102.6	27.8	-27.89
3799	キーウェア	東証2部	570	51.9	32.1	-10.66
3910	エムケイシス	JASDAQ	1,864	50.6	17.3	-10.86
3933	チエル	JASDAQ	1,502	57.4	32.8	-12.73
4918	アイビー化粧品	JASDAQ	6,510	332.3	9.1	-17.80
6045	レントラックス	マザーズ	965	76.2	18.8	-16.38
6046	リンクバル	マザーズ	1,954	63.5	26.8	-11.78
6400	富士精機	JASDAQ	205	18.6	9.9	-10.48
6507	シンフォニア	東証1部	396	589.8	12.0	-15.57
7989	立川ブラインド	東証1部	1,125	233.6	11.2	-12.99
9997	ベルーナ	東証1部	1,158	1,126.0	12.8	-11.26

(注1) 株価騰落率は直近1ヶ月

出所：フィスコアプリより作成

日経平均株価の上値を押さえる海外投資家

■16年度に外国人が選好した銘柄

野村証券では、日経平均株価が今後 20,000 円を上放れる展開を想定する場合、株式需給面からは海外投資家の買いが必要不可欠と言えとの見解を示している。その際、海外投資家が日経平均先物を買戻す動きをすれば、日経平均株価の構成ウェイトが大きい銘柄が恩恵を受けたり NT 倍率が上昇基調に転じることが想定できるとみている。一方、海外投資家は日経平均株価 20,000-20,200 円の価格帯で現物株を 964 億円買い越していることを考慮すると、海外投資家による個別銘柄の選別物色が今後強まる可能性に注目している。その場合、海外投資家が従来選好する特徴を持つ、高 ROE かつ低 PER の銘柄が選好されやすいとみているようである。

■海外投資家が選好する銘柄の特徴を持つ日経平均構成銘柄

コード	銘柄	8/4株価 (円)	時価総額 (10億円)	今期 予想ROE (%)	今期 予想PER (倍)	5月末 対TOPIX相対 株価騰落率(%)	東証33 業種分類
1332	日本水産	633.0	197.8	16.5	9.9	5.3	水産・農林
1333	マルハニチロ	3040.0	160.1	13.4	11.9	-7.8	水産・農林
1801	大成建設	1088.0	1247.7	18.6	11.8	10.6	建設
1802	大林組	1350.0	974.0	17.8	9.2	6.0	建設
1803	清水建設	1179.0	929.7	17.3	9.4	1.6	建設
1808	長谷工コーポレーション	1406.0	422.9	26.5	6.7	-3.9	建設
1812	鹿島	979.0	1035.1	20.0	9.5	10.6	建設
1928	積水ハウス	1904.0	1315.1	11.6	10.3	-3.7	建設
3103	ユニチカ	78.0	45.0	11.7	9.2	-6.3	繊維製品
3401	帝人	2158.0	425.0	12.7	9.9	0.3	繊維製品
4005	住友化学	627.0	1038.0	12.9	9.8	4.3	化学
4042	東ソー	1148.0	746.4	19.4	9.3	17.3	化学
4183	三井化学	631.0	645.1	15.5	9.2	10.3	化学
4188	三菱ケミカルHD	937.7	1412.4	13.5	9.6	7.5	化学
5002	昭和シェル石油	1191.0	448.8	21.1	9.6	12.7	石油・石炭
5020	JXTGHD	494.7	1695.3	11.9	8.4	-1.4	石油・石炭
5703	日本軽金属HD	295.0	182.9	11.3	10.2	9.5	非鉄金属
5714	DOWAHD	873.0	270.6	11.4	10.8	0.4	非鉄金属
6473	ジェイテクト	1543.0	529.7	11.0	9.8	-10.8	機械
6702	富士通	832.5	1723.3	16.5	11.9	-0.9	電気機器
7201	日産自動車	1085.5	4581.6	12.5	7.5	-1.7	輸送用機器
7261	マツダ	1688.5	1012.9	12.4	7.9	7.5	輸送用機器
7270	SUBARU	3920.0	3015.2	20.7	10.0	0.6	輸送用機器
8001	伊藤忠商事	1732.0	2880.1	16.9	7.1	5.9	卸売
8015	豊田通商	3555.0	1258.7	12.4	9.7	0.7	卸売
8304	あおぞら銀行	435.0	514.6	11.2	10.9	2.7	銀行
9022	東海旅客鉄道	17865.0	3680.2	14.3	9.5	-5.3	陸運
9202	ANAHD	410.0	1441.7	14.9	10.5	8.6	空運
9501	東京電力HD	475.0	763.3	12.3	2.7	0.6	電気・ガス

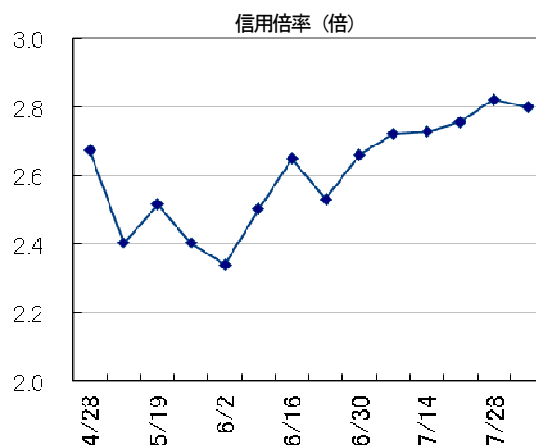
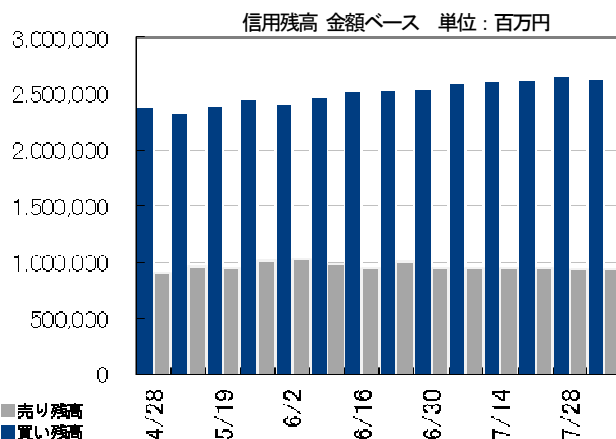
出所:野村証券

個別では決算評価で需給は良好

4日申し込み時点の2市場信用残高は、買い残高が270億円減の2兆6368億円、売り残高が19億円減の9417億円だった。買い残高は9週ぶりに減少し、売り残高は3週連続で減少した。買い方の評価損益率は-7.87%から-9.20%に悪化し、売り方の評価損益率は+0.66%から-0.33%に悪化した。信用倍率は2.82倍から2.80倍に低下している。

この週(7月31日から8月4日)の日経平均株価は前週末比7.51円安の19952.33円だった。日米決算発表が本格化するなか、週初は米アマゾン・ドット・コム決算を嫌気した米ハイテク株安や北朝鮮の地政学リスク、為替市場での円高推移等を受けて、売りが先行。米アップルの好決算を受けて反発する場面もみられたが、週末の米雇用統計を控え、こう着感の強い相場展開となった。

個別では古河電<5801>の信用倍率が2.50倍から0.56倍と売り長の需給状況となった。1Q決算のほか通期計画の上方修正が好感されるなか、買い方の利益確定に対して新規売りが積み上がっている。三菱商<8058>は9.46倍から2.72倍に改善した。1Q好決算のほか国内証券による投資判断引き上げを受けて上昇するなか、買い方の利益確定に対して、新規売りが積み上がっている。



取組みが改善した銘柄

コード	市場	銘柄	8/10終値 (円)	信用買残 (8/4:株)	信用売残 (8/4:株)	信用倍率 (8/4:倍)	信用買残 (7/28:株)	信用売残 (7/28:株)	信用倍率 (7/28:倍)
5801	東証1部	古河電	6,170.0	312,100	558,900	0.56	555,500	221,800	2.50
4676	東証1部	フジHD	1,649.0	109,300	765,300	0.14	143,000	247,800	0.58
8058	東証1部	三菱商	2,557.0	2,078,700	763,100	2.72	3,876,700	409,700	9.46
9021	東証1部	JR西日本	8,067.0	54,200	126,300	0.43	102,000	68,400	1.49
4502	東証1部	武田	5,985.0	180,700	513,900	0.35	401,700	349,500	1.15
6902	東証1部	デンソー	5,360.0	182,800	329,100	0.56	354,000	238,000	1.49
7269	東証1部	スズキ	5,751.0	154,000	742,900	0.21	291,200	538,300	0.54
7453	東証1部	良品計画	31,050.0	65,600	124,500	0.53	137,200	103,900	1.32
9042	東証1部	阪急阪神	4,125.0	13,900	268,200	0.05	28,400	238,200	0.12
5411	東証1部	JFEHD	2,286.5	944,000	1,566,300	0.60	1,181,500	885,000	1.34
8276	東証1部	平和堂	2,535.0	34,900	1,192,400	0.03	26,200	393,700	0.07
2502	東証1部	アサヒ	4,648.0	112,700	350,300	0.32	198,900	282,600	0.70
6981	東証1部	村田製	17,335.0	328,100	320,500	1.02	490,200	226,100	2.17
8029	東証1部	ルック	363.0	5,031,000	2,939,000	1.71	2,284,000	629,000	3.63
8591	東証1部	オリックス	1,812.0	2,571,200	657,200	3.91	3,647,000	455,900	8.00

コラム:「夏枯れ=波乱」の8月相場

8月是一般に「夏枯れ相場」といわれます。しかし、「ニクソン・ショック」をはじめ歴史的なイベントが8月に起きたケースも多々あり、閑散であるがゆえ波乱につながりやすく警戒が必要です。今年は米朝間の緊張が高まっており、ドル・円は心理的節目の110円を割り込みました。目先はどのようなシナリオが待ち受けているのでしょうか。

8月に入ってからドル・円は、大方の市場参加者が想定するレンジ110-115円の下限を短期的に割り込んでも、終値ベースでは110円台を回復し、市場に安心感を与えていました。値動きは110-111円の狭いレンジ内にとどまり、7日のNY市場では110円71銭-110円91銭、高安わずか21銭の閑散ぶりでした。お騒がせのトランプ米大統領も夏休みに入ったことだし、ジャクソン・ホール(米ワイオミング州)で各国の金融当局者が一同に会して行われる年次シンポジウムまでは夏枯れ相場…そんなムードが広がっていました。

ところが、その静寂は突然打ち破られました。トランプ大統領は、ミサイル発射で米国への挑発をし続ける北朝鮮に対し、「世界が見たこともないような炎と怒りに直面する」などと軍事攻撃を示唆。一方、北朝鮮はメディアを通じ「グアム周辺地域を『火星12』(中長距離弾道ミサイル)で包囲射撃する作戦計画を慎重に検討している」と応じます。「グアム」と具体的な地名を挙げて攻撃の意思を示したことで一気に緊張が高まり、リスク回避的な円買いでドルは110円を明確に下抜けました。

振り返ってみると、8月は市場を震撼させる歴史的なイベントが発生しています。主な例として、ドルと金の交換を停止した「ニクソン・ショック」(1971年)、「イラクのクウェート侵攻」(1990年)、「ロシア通貨危機」(1998年)などが挙げられます。記憶に新しいところでは、サブプライム問題の前哨戦となった「パリバ・ショック」(2007年)もそうでしょう。さらに、中国の金融当局が3日連続して人民元の対ドル基準値を引き下げ、中国経済への懸念から世界同時株安が続いた「人民元ショック」は2年前の8月でした。

こうした事例は、現在でいえばリスク回避的な円買いを誘発する要因となります。他にも円に上昇圧力がかかりやすい理由として、米国債の大量入札や償還のほか、日本企業の9月末決算に備えたりパトリ(本国還流)などが考えられます。国内投資家の夏休みがお盆の時期に集中するので、ドル安局面でもその時期には買い支え切れなという現実もあるでしょう。いずれにしても、日本の場合は一般的なネガティブ要因である円高に振れる方が市場参加者の忙しさは増すので、あまりいい思い出は浮かびません。

今年の8月後半は、米朝関係の対立から目が離せません。トランプ大統領は北朝鮮に対して簡単に軍事攻撃に踏み切ることなどしないとは思いますが、金正恩朝鮮労働党委員長と張り合うように力を誇示する姿には不安を覚えます。一方、ジャクソンホールでの会合では、ドラギ欧州中銀(ECB)総裁が予想外に弱気な見解を示すと、市場センチメントが悪化して円高に振れやすくなるでしょう。波乱に備え、そんなシナリオを想定した方がいいかもしれません。

1	スケジュール	経済カレンダー	2-4
		決算カレンダー	5-6
2	レーティング	格上げ・買い推奨	7
		格下げ・売り推奨	8
3	投資主体別売買動向	総括コメント	9
		市場別データ	10
4	新規上場銘柄	結果とスケジュール	11
5	一目均衡表雲抜け銘柄	雲上抜け銘柄（東証1部）	12
		雲下抜け銘柄（東証1部）	13

8月14日～8月18日※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容
8月14日	月	07:45	NZ・小売売上高(4-6月)
		08:50	GDP速報値(4-6月)
		11:00	中・小売売上高(7月)
		11:00	中・固定資産投資(7月)
		11:00	中・鉱工業生産指数(7月)
		15:30	印・卸売物価指数(7月)
		18:00	欧・ユーロ圏鉱工業生産指数(6月)
		20:25	ブ・週次景気動向調査
		21:00	印・消費者物価指数(7月)
		27:00	ブ・貿易収支(週次)(8月13日まで1カ月間)
			決算発表 富士フイルム、出光興産
			中・元建て新規貸出(7月、15日までに)
			中・資金調達総額(中国元)(7月、15日までに)
			中・マネーサプライ(7月、15日までに)
8月15日	火	10:00	営業毎旬報告(8月10日現在、日本銀行)
		13:00	マンション発売(7月)
		15:00	独・GDP速報値(4-6月)
		16:00	トルコ・失業率(5月)
		17:00	日本銀行が保有する国債の銘柄別残高
		17:00	日本銀行による国庫短期証券の銘柄別買入額
		17:30	英・消費者物価コア指数(7月)
		17:30	英・生産者物価産出コア指数(7月)
		21:00	ブ・小売売上高(6月)
		21:00	ブ・広義小売売上高(6月)
		21:30	米・輸入物価指数(7月)
		21:30	米・ニューヨーク連銀製造業景気指数(8月)
		21:30	米・小売売上高(7月)
		23:00	米・企業在庫(6月)
		29:00	米・対米証券投資収支(ネット長期TICフロー)(6月)
			米・決算発表 ホーム・デポ、コーチ
	印・株式市場は祝日のため休場		
8月16日	水	10:10	国債買い入れオペ(残存期間5年超10年以下と10年超)(日本銀行)
		16:00	訪日外国人客数(7月)
		16:05	亜・タイ中央銀行が政策金利発表
		17:00	業態別の日銀当座預金残高(7月、日本銀行)
		17:00	伊・GDP速報値(4-6月)
		17:30	英・失業率(7月)
		17:30	英・ILO失業率(3カ月)(6月)
		18:00	欧・ユーロ圏GDP改定値(4-6月)
		20:00	ブ・FGVインフレ率(IGP-10)(8月)
		20:00	ブ・FGV消費者物価指数(IPC-S)(8月15日まで1カ月間)
		20:00	米・MBA住宅ローン申請指数(先週)
		21:00	ブ・IBGEサービス部門売上高(6月)
		21:30	米・住宅着工件数(7月)
		21:30	米・住宅建設許可件数(7月)
			米・連邦公開市場委員会(FOMC)議事録公表(7月25-26日分)
			米・NAFTA再交渉の第1回会合(20日まで)
			米・決算発表 シスコシステムズ
			中・決算発表 テンセント

8月14日～8月18日※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容
8月17日	木	08:50	貿易収支(7月)
		08:50	対外対内証券売買(先週)
		10:30	豪・失業率(7月)
		17:30	英・小売売上高指数(7月)
		18:00	欧・貿易収支(6月)
		18:00	欧・ユーロ圏消費者物価指数改定値(7月)
		20:30	ブ・経済活動(6月)
		21:30	米・新規失業保険申請件数(先週)
		21:30	米・フィラデルフィア連銀製造業景況指数(8月)
		22:15	米・鉱工業生産指数(7月)
		22:15	米・設備稼働率(7月)
		23:00	米・景気先行指数(7月)
			米・ダラス連銀総裁が講演
			米・決算発表 ウォルマート、ギャップ、アプライド・マテリアルズ
			欧・欧州中央銀行(ECB)議事要旨
			亜・フィリピンGDP(4-6月)
	中・決算発表 アリババ、レノボ		
8月18日	金	10:10	国債買い入れオペ(残存期間1年超5年以下と5年超10年以下)(日本銀行)
		10:30	中・不動産価格指数(7月)
		13:00	亜・マレーシアGDP(4-6月)
		15:00	独・生産者物価指数(7月)
		17:00	亜・台湾GDP(4-6月)
		17:00	欧・経常収支(6月)
		20:00	ブ・FGVインフレ率(IGP-M、2次プレビュー)(8月)
		21:30	加・消費者物価指数(7月)
		23:00	米・ミシガン大学消費者信頼感指数(8月)
			米・ダラス連銀総裁が講演
			米・決算発表 ディア

■(米)7月小売売上高**15日(火)午後9時30分発表予定**

(予想は+0.4%) 参考となる6月実績は前月比-0.2%となり、2カ月連続でマイナス。ガソリンスタンド、衣料品店、スーパーでの売上高が減少した。7月については反動増が予想されるが、雇用や所得環境は特に変わっていないこと、オンラインの売上高に大きな変化はないとみられていることから、小幅な増加にとどまる可能性がある。

■(米)7月住宅着工件数**16日(水)午後9時30分発表予定**

(予想は122.0万戸) 参考となる6月実績は121.5万戸で5月改定値を上回った。一戸建ては前月比+6.3%、5世帯以上の集合住宅は同+15.4%。7月については6月の住宅建設許可件数が増加していることから、6月実績をやや上回る可能性がある。市場予想は妥当な水準か。

■(日)7月貿易収支**17日(木)午前8時50分発表予定**

(予想は、+3501億円) 参考となる7月上中旬分の貿易収支は+56.26億円、黒字額は前年同期比-94.4%。前年7月の貿易収支は最終的に+5045億円となったが、今年については輸入額の伸びは輸出額を上回っていることから、貿易黒字額は前年同月を下回る見込み。

■(米)8月ミシガン大学消費者信頼感指数**18日(金)午後11時発表予定**

(予想は、94.0) 参考となる7月確報値は93.4で、速報値93.1から上方修正された。景気現況指数と消費者期待指数確報値は上方修正された。8月については雇用の改善が続いていることや追加利上げの影響は特になく、7月確報値に近い水準になるとみられる。

※括弧内は決算説明会の予定日。なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
8月14日	1711	省電舎	東証2部		3934	ベネフィットJ	マザーズ	15:00	
	1716	第一カッター	ジャスダックス	15:00	3962	チェンジ	マザーズ	15:00	
	1757	クレアHD	東証2部		3968	セグエグループ	ジャスダックス		
	1841	サンユ建	ジャスダックス	15:00	3975	AOITYOHD	東証1部	15:00	
	1914	日基礎	東証1部	11:00	3979	うるる	マザーズ	16:00	
	1954	日工営	東証1部	15:00	3981	ビーグリー	マザーズ	15:00	
	2134	サンキャピタル	ジャスダックス	15:00	3983	オロ	マザーズ		
	2180	サニーサイド	ジャスダックG		3986	ビーブレイク	マザーズ	15:00	
	2183	リニカル	東証1部	16:00	4288	アズジェント	ジャスダックス		
	2330	フォーサイド	ジャスダックス		4301	アミューズ	東証1部	15:00	
	2388	ウェッジHD	ジャスダックG		4555	沢井製薬	東証1部	13:00	
	2498	ACKG	ジャスダックス	15:00	4594	グリーンペブ	マザーズ		
	2586	フルッタフルッタ	マザーズ	15:00	4653	ダイオーズ	東証1部	15:00	
	2652	マンダラケ	東証2部		4657	環境管理	ジャスダックス	16:00	
	2654	アスモ	東証2部	16:00	4664	RSC	ジャスダックス	15:00	
	2673	夢隊	ジャスダックス	15:00	4766	ビーエイ	東証2部	15:00	
	2708	久世	ジャスダックス	15:00	4845	スカラ	東証1部		
	2721	JHD	ジャスダックス	16:00	4901	富士フイルム	東証1部	15:00	
	2743	ピクセル	ジャスダックス	16:00	5019	出光興産	東証1部	15:00	
	2780	コメ兵	東証2部	15:00	5721	S・サイエンス	東証1部	16:00	
	2820	やまみ	ジャスダックス	15:00	6030	アドベンチャ	マザーズ	16:00	
	2874	ヨコレイ	東証1部	12:00	6033	エクストリーム	マザーズ	16:00	
	3004	神栄	東証1部	14:00	6054	リブセンス	東証1部	15:00	
	3040	ソリトン	東証2部	15:00	6061	ユニバ園芸	ジャスダックス	15:00	
	3041	ピ花壇	東証2部		6069	トレンダーズ	マザーズ	15:00	
	3042	セキユアウェイ	ジャスダックG	15:00	6078	バリューHR	東証1部	14:00	
	3135	マーケットエンタ	マザーズ	15:00	6082	ライドオンEX	東証1部		
	3156	UKCHD	東証1部	15:00	6096	レアジョブ	マザーズ		
	3223	エスエルディー	ジャスダックス	15:00	6187	LITALICO	東証1部	17:00	
	3288	オープンハウス	東証1部	15:00	6191	エポラブルA	東証1部		
	3300	AMBITION	マザーズ	15:00	6198	キャリア	マザーズ	15:00	
	3326	ランシステム	ジャスダックス	15:00	6335	東京機	東証1部	15:00	
	3350	RED	ジャスダックス		6343	フリージアマク	東証2部	15:00	
	3358	ワイエスフード	ジャスダックス	15:00	6420	福島工業	東証1部	16:00	
	3392	デリカフーズ	東証1部	13:00	6531	リファインパス	マザーズ	15:00	
	3457	ハウストウ	東証1部	15:00	6533	デジタルアイ	マザーズ		
	3470	マリモリート	東証REIT	15:00	6540	船場	東証2部	16:00	
	3477	フォーライフ	マザーズ		6545	IIF	マザーズ	15:00	
	3559	ピーバン	マザーズ	09:00	6551	ツナグ・ソリュ	マザーズ	15:00	
	3639	ボルテージ	東証1部	15:00	6616	トレックスセミ	東証2部	15:00	
	3661	エムアップ	東証1部	15:00	6786	RVH	東証2部	15:00	
	3674	オークファン	マザーズ	15:00	6890	フェローテックHD	ジャスダックス	15:00	
	3675	クロスマーケG	マザーズ		6977	抵抗器	東証2部	14:00	
	3680	ホットリンク	マザーズ	15:00	7192	モーゲージS	ジャスダックス	15:00	
	3686	DLE	東証1部	15:00	7522	ワタミ	東証1部		
	3691	リアルワールド	マザーズ		7555	大田花き	ジャスダックス	10:00	
	3694	オブティム	東証1部	15:00	7585	かんなん	ジャスダックス	16:00	
3719	ジェクシード	ジャスダックス		7604	梅の花	東証2部	13:00		
3742	ITBOOK	マザーズ		7707	PSS	マザーズ	15:00		
3747	インタレード	東証2部	15:00	7779	サイバダイ	マザーズ	15:30		
3758	エアリア	ジャスダックス		7781	平山HD	ジャスダックス	15:00		
3807	フィスコ	ジャスダックG		7782	シンシア	マザーズ	15:00		
3840	PATH	東証2部	15:00	7814	日本創発	ジャスダックス	15:00		
3858	ユビキタス	ジャスダックス	15:00	8072	出版賞	ジャスダックス	15:00		
3902	MDV	東証1部	15:00	8147	トミタ	ジャスダックス	11:00		
3904	カヤック	マザーズ	15:00	8202	ラオックス	東証2部	16:00		
3909	ショーケースTV	東証1部	15:00	8705	岡藤HD	ジャスダックス	15:00		
3923	ラクス	マザーズ	11:00	8737	あかつき本社	東証2部			
3925	DS	マザーズ	15:00	8747	豊商事	ジャスダックス	15:00		
3927	アーケン	マザーズ	15:00	8955	日本ブラ	東証REIT	15:00		

※括弧内は決算説明会の予定日。なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻	日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
8月14日	9302	三井倉HD	東証1部	14:00					
	9318	アジア開発	東証2部	13:00					
	9417	スマートバリュ	ジャスダックス	15:00					
	9435	光通信	東証1部	12:00					
	9610	ウィルソンWLV	ジャスダックス	15:00					
	9631	東急レク	東証2部	14:00					
	9820	MTジェネック	ジャスダックス	15:00					
9823	マミーマート	ジャスダックス							
8月15日	2385	総医研	マザーズ	15:00					
	3227	MidCity	東証REIT	16:00					
	7532	ドンキホーテH	東証1部	15:00					
	7719	東京衡機	東証2部						
	8951	日本ビルF	東証REIT	15:00					
8964	フロンティアRE(08/16)	東証REIT	16:00						
8月17日	3296	日本リート	東証REIT						
	8987	Jエクセレント	東証REIT						
8月18日	3076	あいHD	東証1部	15:00					
	6327	北川精機	ジャスダックス	15:00					
	9439	MHグループ	ジャスダックス	17:00					

格上げ・買い推奨

※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価(円)
8月7日	SMBC日興	7240	NOK	3→2格上げ	2150→2600
	大和	4543	テルモ	2→1格上げ	5280→5990
	野村	6723	ルネサス	NEUTRAL→BUY格上げ	950→1280
8月8日	岡三	9022	JR東海	中立→強気格上げ	20200→20800
8月9日	JPモルガン	9513	Jパワー	NEUTRAL→OVERWEIGHT格上げ	2950→3350
	いちよし	7606	Uアローズ	B→A格上げ	-
	大和	6506	安川電	3→1格上げ	1300→4000
	野村	3436	SUMCO	NEUTRAL→BUY格上げ	2014→2135
8月10日	いちよし	4109	ステラケミファ	B→A格上げ	5000
	三菱	4043	トクヤマ	NEUTRAL→OVERWEIGHT格上げ	570
		4921	ファンケル	NEUTRAL→OVERWEIGHT格上げ	2600
		6723	ルネサス	UNDERWEIGHT→NEUTRAL格上げ	-
		6902	デンソー	NEUTRAL→OVERWEIGHT格上げ	6500

格下げ・売り推奨

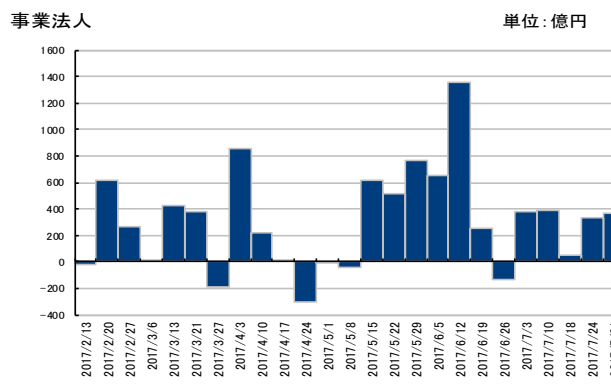
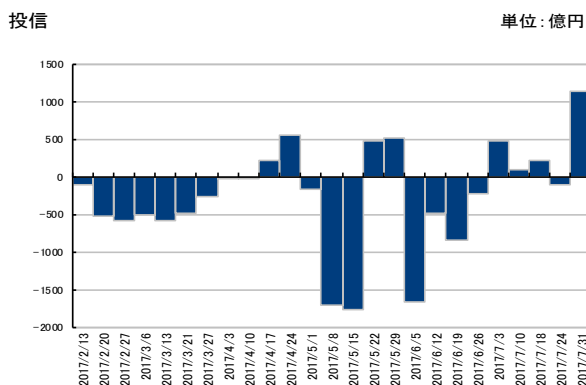
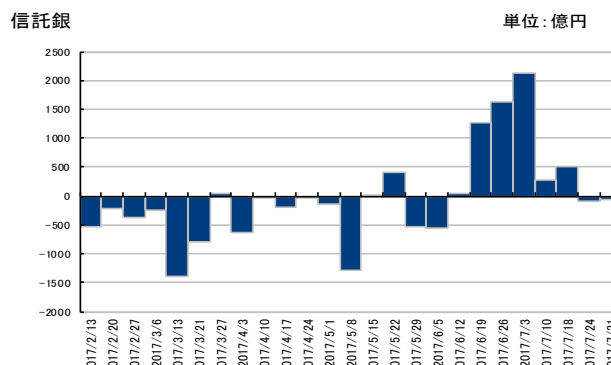
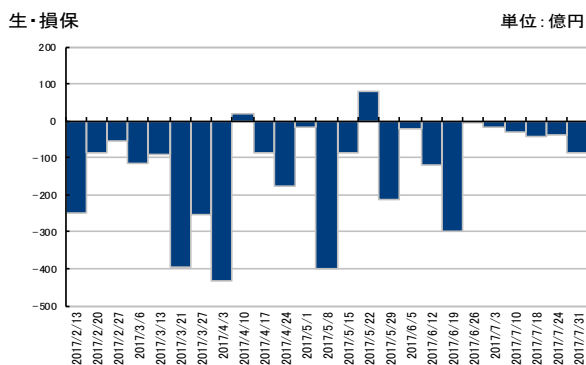
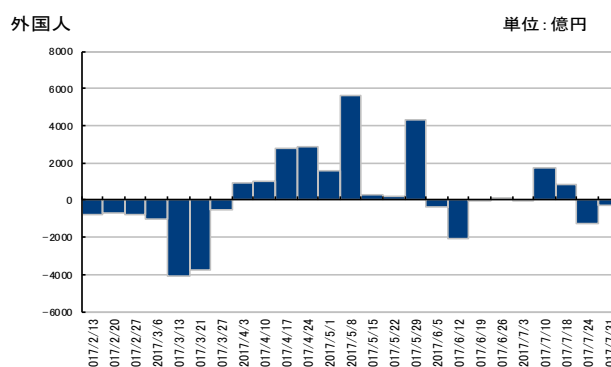
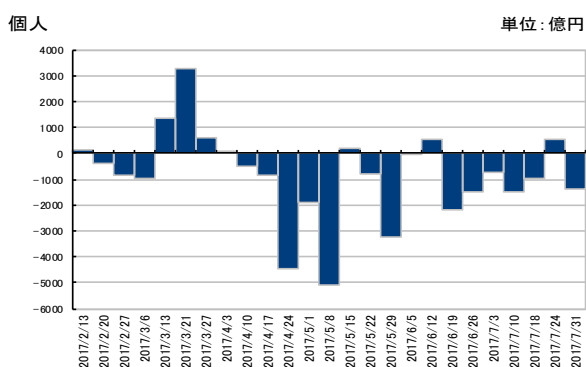
※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価（円）
8月7日	ゴールドマン	2685	アダストリア	コンビクション買い→中立格下げ	-
8月8日	いちよし	6619	WSCOPE	A→B格下げ	-
		6855	電子材料	A→B格下げ	-
	岡三	9511	沖縄電	強気→中立格下げ	2910→2800
	大和	2815	アリアケ	2→3格下げ	8000
		5486	日立金	2→3格下げ	1770→1580
東海東京	4042	東ソー	OUTPERFORM→NEUTRAL格下げ	1210→1260	
8月10日	いちよし	2412	ベネ・ワン	A→B格下げ	-
	三菱	4626	太陽HD	BUY→HOLD格下げ	-
	大和	9956	パローHD	1→2格下げ	3300→2800

8月第1週:外国人投資家は総合で3週連続売り越し継続

8月第1週の投資主体別売買動向によると、外国人投資家は総合で1124億円と売り越し継続となった。現物についても、売り越し継続となった。また、個人投資家は464億円と売り越しに転じた。

その他、事法は373億円、投信は497億円、都地銀は200億円と買い越し継続となった。信託は311億円と売り越しに転じた。生・損保は43億円と売り越し継続となった。自己は、現物、TOPIX先物、225先物買いで1393億円と買い越し継続。この週の裁定残は、ネットベースで185億円減少の1兆3440億円となった。なお、週間の騰落率は日経平均で0.04%の下落だった。



単位:億円

現物	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
	17/04/24	1,942	▲4,449	2,850	556	▲304	▲175	▲200	▲6
17/05/01	731	▲1,877	1,583	▲169	▲10	▲16	▲66	▲145	
17/05/08	3,836	▲5,101	5,602	▲1,718	▲39	▲399	▲456	▲1,288	
17/05/15	550	167	302	▲1,775	621	▲88	▲189	17	
17/05/22	▲1,186	▲793	221	462	519	80	▲107	406	
17/05/29	▲1,087	▲3,217	4,282	507	763	▲214	▲155	▲522	
17/06/05	1,963	▲44	▲354	▲1,664	656	▲21	▲93	▲558	
17/06/12	683	551	▲2,066	▲490	1,359	▲118	▲139	48	
17/06/19	1,986	▲2,189	▲92	▲851	252	▲300	▲99	1,259	
17/06/26	359	▲1,516	115	▲235	▲128	▲1	▲315	1,616	
17/07/03	▲2,160	▲710	▲15	471	376	▲16	▲132	2,124	
17/07/10	▲716	▲1,489	1,732	86	389	▲30	▲229	273	
17/07/18	▲618	▲953	861	219	47	▲43	▲117	518	
17/07/24	254	530	▲1,283	▲106	334	▲39	▲85	▲79	
17/07/31	634	▲1,402	▲295	1,135	364	▲86	▲214	▲64	

単位:億円

TOPIX先物	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
	17/04/24	▲1,295	72	1,440	▲136	5	40	285	▲448
17/05/01	▲1,059	95	818	150	0	28	▲141	127	
17/05/08	▲4,071	▲7	3,257	177	3	52	174	305	
17/05/15	1,135	▲117	▲724	▲170	▲7	14	16	▲121	
17/05/22	371	137	▲12	▲214	4	77	▲110	▲202	
17/05/29	▲39	▲29	179	▲169	0	47	108	▲71	
17/06/05	▲150	104	471	▲234	▲1	1	39	▲327	
17/06/12	783	▲162	▲167	▲29	▲4	6	▲48	▲85	
17/06/19	238	▲68	521	▲175	1	205	▲49	▲727	
17/06/26	19	▲10	1,421	▲76	▲52	▲115	80	▲966	
17/07/03	1,896	▲259	▲617	▲98	▲41	▲116	▲367	▲374	
17/07/10	464	167	594	▲1,015	▲27	180	56	▲406	
17/07/18	472	46	▲789	15	▲10	26	96	210	
17/07/24	1,347	▲221	▲1,020	40	0	▲16	▲26	▲92	
17/07/31	▲114	258	▲88	28	▲1	63	▲35	▲65	

単位:億円

日経平均先物	日付	自己	個人	外国人	投信	事業法人	生・損保	都地銀	信託銀
	17/04/24	529	▲285	3,051	▲2,311	▲30	0	▲96	▲706
17/05/01	▲259	131	625	▲477	▲36	0	57	▲55	
17/05/08	▲1,821	192	4,891	▲3,478	6	0	203	▲27	
17/05/15	295	▲232	58	65	3	0	▲199	▲40	
17/05/22	717	321	▲1,479	285	1	0	▲108	224	
17/05/29	1,151	▲354	▲821	▲385	▲15	▲10	459	▲65	
17/06/05	633	365	▲352	▲883	42	▲3	106	▲84	
17/06/12	2,548	184	▲3,211	498	▲72	▲13	▲100	169	
17/06/19	▲39	▲391	1,737	▲1,007	21	3	▲5	▲270	
17/06/26	▲271	526	45	▲369	57	▲10	1	▲69	
17/07/03	1,308	102	▲765	▲16	39	▲223	▲351	▲183	
17/07/10	▲138	▲400	364	▲374	▲0	219	484	▲144	
17/07/18	1,212	277	▲1,564	37	2	0	7	▲70	
17/07/24	556	▲278	▲849	223	54	0	111	194	
17/07/31	873	680	▲741	▲666	10	▲20	49	▲182	

※ データは直近の新規上場銘柄の結果とスケジュールを全て掲載しています。
証券会社によって取り扱いが異なりますので、お取引の際は各証券会社にご確認ください。

銘柄名	コード	市場	上場日	仮条件 (円)	公募株数 (株)	売出株数 (株)	公募価格 (円)	初値 (円)	主幹事	8/10終値 (円)
シェアリングテクノロジー	3989	東M・名C	8/3	1,560~1,600	600,000	780,000	1,600	2,990	大和	2,170
事業内容:	ライフサービス領域に関する「バーティカルメディアサイト」及び総合プラットフォームサイト「生活110番」の運営、WEB集客にかかるコンサルティング業務等									
トランザス	6696	東M	8/9	1,240~1,300	380,000	460,000	1,300	3,510	いちよし	3,630
事業内容:	IoT端末や機器装置の製造販売及びシステム・サービスの提供並びに業務システム等の受託開発等									
UUUM	3990	東M	8/30	1,880~2,050	302,000	214,800	-	-	野村	-
事業内容:	YouTuberを中心とするクリエイターのマネジメント業務、クリエイターに関連するプロモーション提案やグッズ販売、動画コンテンツの制作等									
エスユーエス	6554	東M	9/13	-	323,000	31,000	-	-	野村	-
事業内容:	IT分野・機械分野・電気/電子分野・化学/バイオ分野における技術者派遣・請負業務、ERP分野におけるコンサルティング・システム開発・導入支援等									
ウオンテッドリー	3991	東M	9/14	-	50,000	80,000	-	-	大和	-
事業内容:	ビジネスSNS「Wantedly」の企画・開発・運営									

雲上抜け銘柄(東証1部)

コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)	コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)
1899	福田組	5870	5688.75	5500	2270	雪印メグ	3245	3183.25	3146
2715	エレマテック	1996	1905.5	1994.5	2730	エディオン	1052	1023.75	977.5
3028	アルペン	2161	2077	1977.5	3103	ユニチカ	81	79.75	71.5
3299	ムゲンE	1064	722.25	967.5	4109	ステラケミファ	3960	3351.5	3100
5413	日新製鋼	1484	1454	1367.5	5602	栗本鉄	2233	2216.25	1968.5
5631	日製鋼所	2185	2167.5	2110	6482	ユーシン精機	2915	2780.5	2382.5
6584	三桜工	862	828.5	751	6727	ワコム	443	346.75	407.5
8365	富山銀	4280	4173.75	3600	8386	百十四銀	375	371.5	348.5
9069	センコーHD	754	752.75	715	9706	日本空港ビル	4190	4182.5	4037.5
9831	ヤマダ電機	590	584.25	563.5	9966	藤久	1724	1723	1699

雲下抜け銘柄(東証1部)

コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)	コード	銘柄	終値 (円)	先行スパンA (円)	先行スパンB (円)
1810	松井建	988	1114.75	989.5	1870	矢作建	908	1036.25	913
1926	ライト工	1097	1184.5	1159.5	2112	塩水糖	250	254.75	250.5
2220	亀田製菓	5160	5251.25	5185	2376	サイネックス	957	1080.75	977.5
2395	新日科学	574	604.75	601.5	2428	ウェルネット	1209	1316.25	1715.5
2464	BBT	362	415.75	371	2801	キッコマン	3480	3520	3555
2915	ケンコーマヨ	2987	3142.5	3047.5	3001	片倉	1291	1385	1326
3022	山下医	1721	1736.25	1742	3178	チムニー	2830	2830.25	2859
3655	ブレインパッド	1117	1332.5	1188	3864	三菱紙	745	758.5	746
3909	ショーケース	1073	1259.5	1129.5	4118	カネカ	830	903.5	852
4324	電通	4855	5466.25	5245	4344	ソースネクスト	510	610	549.5
4762	XNET	925	957	928	4974	タカラBIO	1422	1567	1435.5
5334	特殊陶	2098	2430	2113	5727	邦チタニウム	832	861.25	848
5741	UACJ	280	330	286.5	5852	アーレスティ	953	1179.75	1006
5902	ホッカンHD	421	475.25	427	5989	エイチワン	1090	1270.25	1108.5
6238	フリーー	1067	1363.25	1252.5	6412	平和	2333	2652.5	2447.5
6654	不二電機工業	1358	1388.5	1368.5	6675	サクサ	201	234.5	216
6703	OKI	1504	1577	1509	6839	船井電機	850	921.25	924.5
7245	大同メタル	944	1121	993.5	7280	ミツバ	1595	1911.25	1643.5
7733	オリンパス	3725	3922.5	3935	7860	エイベクスHD	1459	1610	1469
7937	ツツミ	1874	1921	2136	8036	日立ハイテク	3805	4515	3847
8396	十八銀	288	340	293	8918	ランド	17	18.5	18.5
9008	京王	922	922.25	956.5	9024	西武ホールディ	1912	1965	2032
9044	南海電鉄	557	558.25	580	9479	インプレスH	142	143.25	148
9501	東京電力HD	456	468.5	489	9740	CSP	2020	2027	2325.5

【ご投資にあたって】

本レポート記載の内容に従ってお取引される場合、店舗における国内の金融商品取引所に上場する株式(売買単位未満を除く)の場合は約定代金に対して最大1.134%(税込み)(ただし、約定代金の1.134%に相当する額が2,700円(税込み)に満たない場合は2,700円(税込み))の委託手数料をご負担いただきます。

また、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の価格の変動等および有価証券の発行者の信用状況(財務・経営状況含む)の悪化等、それらに関する外部評価の変化等により損失が生じる恐れ(元本欠損リスク)があります。

なお、信用取引などを行う場合は、対象となる株式等または指標等の価格変動により損失の額がおお客様の差し入れた委託保証金などの額を上回るおそれ(元本超過損リスク)があります。なお、商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読みください。

【免責事項】

- 本資料は株式会社フィスコ(以下「フィスコ社」という)独自の調査・判断に基づくものであり、ひろぎん証券株式会社による投資情報ではありません。そのためひろぎん証券は本資料の正確性、完全性について一切の責任を負うものではなく、また、本資料の情報に基づいて被ったいかなる損害についても一切の責任を負いません。
- フィスコ社が提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。また、掲載される情報はフィスコ社が信頼できると判断した情報源をもとに作成したものです。その内容及び情報の正確性、完全性または適時性について、フィスコ社は保証を行なっておりません。また、いかなる責任を持つものでもありません。
- 本文、データなどに関しましては、著作権法などの法律、規制により知的所有権が保護されており、個人の方の本来目的以外での使用や他人への譲渡、販売コピーは認められていません(法律による例外規定は除く)。
- 金融商品(投資信託・外貨預金・公共債等)は、価格の変動等により損失が生じるおそれがあります。
- 商品毎に手数料等およびリスクは異なりますので、金融商品をお申込の際は、当該商品等の契約締結前交付書面もしくは投資信託説明書(交付目論見書)の内容をよくお読みください。

私たちはお役に立つ情報提供を常に考え、行動しています。



商号等:ひろぎん証券株式会社
金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第20号
加入協会:日本証券業協会
本社 〒730-0032 広島市中区立町2-30 電話:082-245-5000(代)
<http://www.hirogin-sec.co.jp>

本店営業部	〒730-0032	広島市中区立町2-30	TEL:082-245-5000	可部支店	〒731-0221	広島市安佐北区可部5-13-12	TEL:082-815-2600
ゆめタウン 広島出張所	〒734-0007	広島市南区皆実町2-8-17 ゆめタウン広島内	TEL:082-252-8415	五日市支店	〒731-5127	広島市佐伯区五日市7-4-33	TEL:082-922-0161
コンサルティング 営業室 法人営業	〒730-0032	広島市中区立町2-30	TEL:082-245-5035	東広島支店	〒739-0014	東広島市西条昭和町3-21	TEL:082-422-3621
福山支店	〒720-0808	福山市昭和町1-1	TEL:084-922-1321	廿日市支店	〒738-0024	廿日市市新宮1-9-34	TEL:0829-31-6611
投資相談 ブース岡山	〒700-0826	岡山市北区磨屋町1-3 広島銀行 岡山支店内	TEL:086-222-1561	岩国支店	〒740-0017	岩国市今津町1-9-26	TEL:0827-22-3161
府中支店	〒726-0004	府中市府川町337-1	TEL:0847-45-8500	徳山支店	〒745-0015	周南市平和通2-33	TEL:0834-31-5350
尾道支店	〒722-0035	尾道市土堂1-11-17	TEL:0848-23-8121	防府支店	〒747-0801	防府市駅前町4-1	TEL:0835-22-2871
因島支店	〒722-2323	尾道市因島土生町塩浜1894-10	TEL:0845-22-2291	宇部支店	〒755-0043	宇部市相生町3-15	TEL:0836-31-1105
竹原支店	〒725-0026	竹原市中央1-5-3	TEL:0846-22-2295	萩支店	〒758-0027	萩市吉田町64-2	TEL:0838-25-2121
三原支店	〒723-0014	三原市城町1-5-12	TEL:0848-67-6681	浜田支店	〒697-0024	浜田市黒川町4185	TEL:0855-22-1515
呉支店	〒737-0046	呉市中通2-4-13	TEL:0823-21-6401	別府支店	〒874-0935	別府市駅前町12-11	TEL:0977-21-3111
三次支店	〒728-0013	三次市十日市東1-2-48	TEL:0824-62-3121	東京支店	〒103-0026	中央区日本橋兜町21-7	TEL:03-3668-7551

ネットセンター(インターネット取引) <http://www.hirogin-sec.co.jp>

コールセンター(コール取引) フリーアクセス:0120-506-084

資料作成:株式会社フィスコ

■本レポートに関するお問合せ■
株式会社フィスコ 営業開発部
電話:03-5774-2463 E-mail: eigyo@fisco.co.jp
〒107-0062
東京都港区南青山5-4-30 CNAC2F

